

真木

第 211 号
 〒260-0852
 千葉市中央区青葉町
 1274-14
 加藤峰子方
 千葉県俳句作家協会
 事務局
 TEL 043-225-7115

〒276-0042
 八千代市ゆりのき台3-4-1101
 前北かおる方
 「真木」編集部
 TEL 090-4363-3501

目次

千葉・県民芸術祭 第66回千葉県俳句大会	1
千葉県民文化祭・俳句短冊展	4
秋季吟行会	5
新春交流会のご案内	6
千葉県俳壇ニュース	7
結社賞、会員著書紹介、新入会員一句	8
基金御礼、受贈誌より、事務局日誌	9

令和六年度千葉・県民文化祭 第66回千葉県俳句大会

大会を終えて



秋尾敏 実行委員長

第六十六回千葉県俳句大会には、皆様より例年を大きく超える二、〇四八句の応募をいただき、またジュニアの部にも多くの投句があつて、十月二十日、千葉市民会館において式典開催の運びとなつた。多くの方々にご出

席をいただき、「秋」主宰佐賀賀正美氏のご講演もすばらしく、有意義な会を催すことができた。ご投句くださった皆様、ご臨席を賜つた皆様に心よりお礼を申しあげる。

ご講演の佐賀賀正美先生には、師の石原八束に学んだ季語をめぐつてのお話をいただき、私たちが桜をはじめとする季語に、いかに深いイメー

ジを持つているかを再認識した。詩人の三好達治にも話が及び、俳句とはどのようなものかということへの認識を深める時間ともなつた。併せて、当協会の設立時に、柴田白葉女、小出秋光、田口一穂など、飯田蛇笏、石原八束を師系とする先人達が大きな柱となつていたことを思い起こした。当日句会にも例年にまさるご参加をいただいた。会場が変わつたこともあつて進行に手間取り、お待ちいただく時間が長くなつてしまつたことは反省点である。遠方よりお越しいただいた方々にお詫び申し上げます。次年度に生かしていきたい。

次年度は会場を市川市に移しての開催となる。はじめてのことであるので、準備には万全を期したい。

皆様からの、本年にまさるご投句をお待ち申しあげる。

実行委員長 秋尾 敏

千葉・県民文化祭 第66回千葉県俳句大会

【一般の部】

雑詠入賞者

千葉県知事賞

白壁に影の貼りつく炎暑かな

香取 高岡富美子

千葉県議会議長賞

行く春のバスに過客のやうにゐる

松戸 浪岡 玄

千葉県教育長賞

万物の音閉じ込めて瀑布落つ

流山 山崎 純子

千葉県俳句作家協会賞

墓参りこの世の話して帰る

柏 茶谷 静子

千葉日報社賞

しばらくは風着るこち更衣

佐倉 林 昭太郎



千葉県知事賞
高岡富美子氏

千葉市観光協会会長賞

秋燕の哀しきまでの高さかな

香取 谷本 元子

優秀賞

先頭を信じきつたる蟻の列

千葉 石橋みち子

帰省とは校歌の山を巡ること

柏 伊藤 素広

燕来て空新しくなりにけり

さいたま 古郡 孝之

舳先より座の決りたる船料理

千葉 東 昇

秋灯し一人のように居て二人

柏 保坂 末子

船虫の散つて白昼夢のつづき

浦安 坂本 茉莉

秀逸賞

身じろぎもせぬ炎天の風見鶏

我孫子 川合 千尋

箱庭を孔子一行通り過ぐ

市原 清水 伶

百万の薔薇ゆれ雨の反戦歌

稲敷 岡澤 田鶴

何もかも脱ぎ夏の子になりにゆく

千葉 すぎき巴里

曖昧な四季曖昧に更衣

柏 高橋久美子

薄化粧して新盆の門火焚く

船橋 山内 洋光

佳作賞

吉羽あつ美 田中美佐子

須崎 輝男 大月 弓香

木之下みゆき 安孫子菊代

山崎カツ子 金田めぐみ

山田 邦夫 酒井 裕子

石井紀美子 能村 研三

(応募数 一〇二四組 二〇四八句)

【ジュニアの部・小学生の部】

千葉県教育長賞

草の中ひみつきちだよ虫たちの

木更津市立南清小三年 勝呂友里加

千葉県教育長賞

たちあおい空を見ながらそだつていく

木更津市立南清小三年 三枝 明莉

千葉県芸術文化団体協議会長賞

なつの日にゆれるひまわりりんりと

木更津市立祇園小三年 七海 耀太

千葉県俳句作家協会会長賞

はるやすみねこのさんぽにいきました

市原市立ちはら台桜小四年 梅田那々瀬

千葉県俳句大会委員長賞

こいのぼりじゆうきままにあそんでる

市原市立ちはら台桜小四年 平田 悠人

優秀賞

市原市立ちはら台桜小六年

千葉市立あすみが丘小六年

市原市立ちはら台桜小六年

木更津市立南清小三年

市原市立ちはら台桜小五年

木更津市立南清小三年

馬場 道子

井上つぐみ

原 瞳子

磯野 広子

関根 瑠華

加藤 裕太

沼田 健斗

山田 大晟

及川 陽太

小林 桜子

中村 美智

中野 結衣

木更津市立祇園小三年
木更津市立真舟小四年

松岡 朱莉
平野 叶
(応募数 四四二句)

【ジュニアの部・中学生の部】
千葉県教育長賞

汗にじむ防具をつけて向かってゆく

流山市立南流山中三年 丸山

愛

千葉市教育長賞

縁側で私もコップも汗をかか

流山市立南流山中三年 松川

日鞠

千葉県芸術文化団体協議会長賞

夜の川飾りはじめる蛍達

流山市立南流山中三年 関谷

花菜

千葉県俳句作家協会長賞

ひまわりが空を見たいと開花する

流山市立南流山中三年 平井

颯介

千葉県俳句大会委員長賞

夏休み仲間と創る一ページ

流山市立南流山中三年 陳

思宇

優秀賞

流山市立南流山中三年

渡辺 和奏

流山市立南流山中一年

秋元 月音

流山市立南流山中二年

山崎 蓮

流山市立南流山中一年

佐藤 千咲

流山市立南流山中二年

出口登和子

流山市立南流山中二年

長谷川桃果

流山市立南流山中二年

浅井 駿成

流山市立南流山中一年

小林 優心

流山市立おたかの森中三年

井ノ口勘太

(応募数 六六二句)

◆大会記

十月二十日(日)、千葉市民会館小ホールにて千葉・県民文化祭、第六十六回千葉県俳句大会が開催された。朝のうち雨の残る天気ではあったが、昨年を大きく上回る七十六名の当日投句者、ジュニアの部の入賞者とその家族が集まった。

大会は石井紀美子理事長の司会、秋尾敏実行委員長の開会の辞によって開幕した。まず、能村研三会長が登壇。今回、二千句を上回る応募作品が集まったことへの謝意に、協会の各種事業紹介も交え挨拶した。続いて、主催者として、県環境生活部スポーツ・文化局文化振興課の大西奈津紀副課長の挨拶。さらに、来賓挨拶として千葉県芸術文化団体協議会会長吉本充氏から祝辞があった。地元富津と小林一茶、夏目漱石、正岡子規の縁を、子規の「春風や鋸山を砕く音」を挙げながら、紹介した。

その後、加藤峰子事務局長の読み上げで、一般の部の表彰式が行われた。講評では、能村会長が千葉県知事賞に輝いた高岡富美子氏の「白壁に影の貼りつく炎暑かな」について、「貼りつく」が今年の暑さを物語っていたと称えた。

一般の部に続き、ジュニアの部の表彰式が行われた。読み上げは藤井稜雨理事、講評は北川副会長が担当した。

休憩を挟んで、午後は講演と当日句の句会。まず、現代俳句協会副会長の佐怒賀正美氏が、「私の現代俳句く師から学んだ季語など」の題で講演した。「秋」の石原八束と「天為」の有馬朗人。二人

の師との思い出を、辛夷、滝桜、凌霄花、天の川、白夜の季語とともに語った。また、故郷の渡良瀬遊水池の葦野焼についても、自作の「はげ山の晩秋アノニマスの威容」とともに紹介した。

最後に、当日句の句会を行った。席題は「牛膝」と「夜長」。参加者七十六名、一五二句の投句があった。選句は理事のみが行い、重城弥生理事、須田眞里子理事、村上喜代子理事が披露した。表彰に移る前に、来賓の千葉市議会議長石川弘氏から挨拶があった。その後、増成副会長から講評があった。最後に、秋尾大会実行委員長が閉会の辞を述べ、お開きとなった。

当日は協会の理事諸氏が運営を担当したほか、事前準備から当日の裏方までを、伊藤素広事務局長、藤井稜雨理事が担当しスムーズな進行を支えた。



佐怒賀正美氏による講演



千葉市長賞 浪岡玄氏

◆【当日句】 席題「牛膝」「夜長」
千葉市長賞

牛膝のみ知る束の間の家出 浪岡 玄

千葉市議会議長賞

夜長し村はゆつくり老いにけり 古郡 孝之

千葉市教育長賞

一階の音を二階に聞く夜長 村上喜代子

千葉市文化連盟会長賞

水郷の夜の長さを水流れ 岡澤 田鶴

千葉テレビ放送賞

ウキスキーの瓶の底なる夜長かな 坂井 博

優秀賞

混沌に適ふことばを追ふ夜長 滝口美智子

晩年の未来図語る夜長かな 宮下 奈緒

少年老い易く牛膝塗れ 葛西 茂美

流鏑馬の射手の衣縫ふ夜長かな 鎌田 光恵

わだかまりすつかり解けて牛膝 藤井 稜雨

秀逸賞

捨てられぬ世のしがらみや牛膝 三浦 侃

帰郷してつくづく夜の長さかな 石橋みち子

子供との程よき距離やゐのこづち 川村 初子

故郷の闇は本物夜の長し 高岡富美子

ここからは鬼の領域いのこずち 木之下みゆき

ふたりならよながもきつとわるくない 加藤 裕太

語りをする今日の冒険牛膝 竹縄 征子

錠剤のちくはく残る夜長かな 山内 洋光

ゐのこづち付けて最短距離走る 能村 研三

ゐのこづち付けて舟よりあがりくる 増成 栗人

千葉県民芸術祭・俳句短冊展 『新秋を詠む』

千葉県俳句作家協会では、九月四日から九日まで、そごう千葉店地下ギャラリーにおいて、俳句短冊展を行った。協会役員、理事の色紙や短冊、二十七点が、写真とともに展示された。例年に比べコンパクトなスペースに、賑やかな展示となった。出品作品は以下の通り。

月に揺れ竹春にして獣めく
震災忌オール電化といふ不安
朝顔やイギリス巻の明石町
乗り継ぎの風捜しをりしやばん玉
いくたびも山河は崩れ曼珠沙華
閨門の水満々と子規忌くる
死者祀る八月といふ闇深く

染谷 卓
稗田 寿明
平岡 育也
藤井 稜雨
村上喜代子
村 森司
藤田 考成

滑翔の力を貯めて鷹渡る

能村 研三

へうへうと風の来てゐる瓢棚

増成 栗人

初めて涼し勝浦に糸垂れて

秋尾 敏

銀河垂る児童の句歌は翼なす

北川 昭久

露浄土般斗に星の涙たむ

石井紀美子

とんぼ来る手紙をひとつ置くやうに

高橋 健文

ちちろ鳴く昼を灯して金物屋

加藤 峰子

空は底なし青虫は汽車に乗る

三浦 侃

口笛のくちびるに似て萩の花

前北かおる

旅人にまるく熟して夏の月

飯田 晴

歩くほど遠くが見えて柿の秋

伊藤 素広

豊年や米粒ほどの歯が二つ

葛西 茂美

海風の中を単線黄のキャンナ

鎌田 光恵

見世蔵の柱の記憶秋惜しむ

清水佑実子

朝蟬激し知覧茶を濃く淹れよ

すずき巴里

新涼のドンドコ沢は九十九折

重城 弥生

白亜紀へ続く岬やいわし雲

須田眞里子

人は詩を若葉は水を抱いている

高橋 宗史

林火忌の月振り返る坂がかり

滝口 滋子

すこやかに老ゆ朝顔の夜明かな

中村 世都



秋の俳句短冊展

令和六年度 秋季吟行会

成田山新勝寺

吟行記

九月十九日（木）、雨の天気予報が良い方に外れ、まだ残暑は厳しいものの、まずまずの吟行日和。参加者は、J.R（京成）成田駅からの参道の土産店、鰻屋の店々の開店準備を横目に、三橋鷹女のブロンズ像の立つ新勝寺への長い参道を歩き、元気に総門をくぐった。

総門から境内を抜け、成田山公園へ。歴史を感じさせる古木の緑の中、紅葉が色づき、初秋の気配を感じつつの吟行となった。

成田山新勝寺は千年余の歴史をもち、年間一千万人を超える参詣者が訪れる全国有数の寺院である。江戸歌舞伎の第一人者、初代市川團十郎が子授け祈願をしたところ、元禄元年に待望の長男を授かったことが機縁で市川宗家は「成田屋」を名乗るようになるなどエピソードには事欠かない。

また、高濱虚子も昭和十一年九月六日の第七十三回武蔵野探勝「印旛沼から成田へ」において成田山新勝寺を訪れており、本日の吟行とほぼ同じ季節の吟行を行っている。当時の富安風生の記録にも「裏の公園を一巡した。丘の起伏の自然を利用して人口を加へた広い公園は、相当なもの

である。滝に下りたり、池のほとりを巡ったり、又小高い台に登つたりするのである（略）羽織を脱がれると、先生の帷子の背にも汗が大きく滲んでゐた。」とあり、本日の私たちと同じような気温、気候だったようだ。

さて、今回の私たちの吟行は、改装中の書道美術館をお借りし、参加者五十九人の賑やかな大会となった。

十二時四十分、飯田晴理事の司会にて開会。増成栗人副会長から俳句を通じた出会いを大切にしたい、親交を深めようとの開会の辞があり、その後、参加者全員がに選句に取り組んだ。

十三時五十分より、藤井稜雨、滝口美智子氏、加藤峰子事務局長による披露。休憩の後、能村研三会長より俳人・福永耕二についてご自身との関わり合いなど、ユーモアを交えつつ貴重な講演があった。

その後、再開された句会では、増成栗人、秋尾敏、北川昭久副会長、石井紀美子理事長、加藤峰子事務局長からの特選句、注目句についての講評。石井理事長からの成績発表があり一位から十五位までの作家に賞品が授与された。

十五時三十分、秋尾副会長の閉会挨拶をもつ

て、令和六年度の秋季吟行会は無事お開きとなりました。ご参加の皆様、ご関係の皆様のお力添えに心から感謝を申し上げます。

（藤井稜雨記）



能村会長による講演

秋季吟行会作品集

能村研三会長特選

蓑虫に鳴き声あらばこむらさき

伊藤 素広

増成栗人副会長特選

草よりも草の色して飛蝗とぶ

原 瞳子

秋尾敏副会長特選

真言の風を色なき風という

細根 栞

北川昭久副会長特選

七代目いて虚子がいて蟬時雨

木之下みゆき

石井紀美子理事長特選

堂めぐる色なき風が鬼女をつれ

谷本 元子

加藤峰子事務局長特選

七代目いて虚子がいて蟬時雨

木之下みゆき

入賞者と代表作品 (○内は順位)

- ① 岐れてはまた会ふ小径萩の風 谷本 元子
- ② 開基一〇九〇年の松手入れ すぎ巴里
- ③ 秋暑し鷹女を魔女と読み違ふ 久礼 隆志
- ④ 草よりも草の色して飛蝗とぶ 原 瞳子
- ⑤ 七代目いて虚子がいて蟬時雨 木之下みゆき
- ⑥ 水琴窟律の調べと聴き入りぬ 藤茎まさ志
- ⑦ この路地に鷹女住みけり昼の虫 染谷 卓
- ⑧ 蓑虫に鳴き声あらばこむらさき 伊藤 素広
- ⑨ 額堂は時をとどめて昼の虫 須田眞里子
- ⑩ くうと鳴かせ鰻を捌く店主の眼 加藤 峰子
- ⑪ 楼門に入るや秋声にはかなり 岡澤 田鶴
- ⑫ 掴むものなき石段の秋の蝶 紬 真知
- ⑬ 秋麗や見知らぬひとと浮御堂 吉崎ひかり
- ⑭ 真言の風を色なき風という 細根 栞
- ⑮ 参道の石彫りの干支小鳥来る 清水佑実子

参加者一覧 (入賞者は除く)

- 秋尾 敏 梓 孝江 新井 京子 有馬 芳生
- 飯田 晴 飯塚 典子 石井紀美子 磯部 香
- 井本とき子 岩永 靖舎 上田 玲子 大政 建夫
- 岡井マスマスミ 岡本 秀子 加藤 和代 金子日出子
- 鎌田 光恵 北川 昭久 栗坪 和子 齊藤るりこ
- 坂井 博 佐々木和子 塩野谷慎吾 志磨 泉
- 重城 弥生 高橋 宗史 滝口美智子 戸塚 邦子
- 永長 智子 中田三三代 中村 世都 中村 美翔
- 能村 研三 早坂 哲夫 平岡 育也 平山 武彦
- 藤井 稜雨 藤野 武彦 増成 栗人 三浦 侃
- 本針 久子 森野 芳男 横尾かな 祐 森司



理事による点盛り

新春交流会のご案内

広く会員並びに俳句愛好の皆様との交流の場とすべく「新春交流会」を左記の通り開催します。当日は第十回俳句大賞の贈賞式も行いますので皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいますようご案内いたします。

日時 令和七年二月十一日(火・祝)

会場 千葉市文化センター 五階セミナー室

千葉市中央区中央二丁目五一

TEL 〇四三一二四一八二二一

一、第十回俳句大賞贈賞式 午後二時十分

二、新春交流俳句会 午後二時五十分

投句 二句(事前投句)

当日会場整理費 一、〇〇〇円

三、新春交流祝賀会 午後五時十五分

会場「珍宴」、会費 五、〇〇〇円

申込み締切り 令和六年十二月三十日(月)

申込み方法 所定の用紙に、俳句二句と指定事項を全て記載の上、投句二句と千円を同封して左記へお申込み下さい。

(現金書留または郵便小為替で送付。投句料の返却はいたしません。)

選句は協会役員・理事にて行い投句者全員に作品集を、入賞者には賞品を送ります。

投句先

〒292-0057

木更津市中央三三一六 重城弥生方

千葉県俳句作家協会 新春交流会係

電話 0438-2215574

問合せ先 新春交流会担当 平岡育也

電話 043-25117284

電話 043-25117284

千葉県俳壇ニユース

第六十一回柏市民俳句大会

柏市俳句連盟主催の第六十一回柏市民俳句大会が柏市教育委員会の後援を得て令和六年八月三十日、柏市中央公民館（ラコルタ柏）に於て開催された。参加者は一〇八名であった。上位入賞者（二十位までのうち十位まで）とその代表句は次の通り。

◆入賞者（互選二句合点）代表句

市長賞

触れもして江戸風鈴の音を買う

佐々木和子

議長賞

帰省してわが原点に触るる部屋

豊島 京子

教育長賞

野間の土手崩るるままに葛の花

三 太郎

連盟会長賞

濡れてゐる子牛の瞳晚夏光

弦巻喜久子

⑤ 予後の身の置き所なき残暑かな

日岡 育夫

⑥ 人間を逃げずに草をただ筆る

椎名 鳳人

⑦ ソーダ水我執の抜けてゆくところ

茶谷 静子

⑧ 涼しさや音立てへこむアルミ缶

後藤 輪子

⑨ 石段の一段毎の野分かな

山村 自游

⑩ 住み慣れたこの地が故郷へばきゆうり

成田美律子

（柏市俳句連盟 茶谷静子 報）

第二回市川市ジュニア俳句大会

二〇二四年八月、市川市芸術文化団体連絡協議会（芸文協…会長能村研三）創立五十周年記念事業の一環として第二回市川市ジュニア俳句大会をおこなった。

市長賞

南新浜小六年 岩間陽菜子

新学期自分の殻を突き破れ

議長賞

平田小六年 佐藤萌妃菜

春にはね違う出会いが待ってるよ

教育長賞

南新浜小六年 森崎 心菜

春は花いろんな色のハーモニー

優秀賞

曾谷小六年 徳光 結空

運動会蒼空の下風になる

優秀賞

平田小六年 山口 寛人

菜の花をいすみ鉄道駆け抜ける

優秀賞

八幡小六年 増田 想大

思い出が卒業式でよみがえる

優秀賞

南新浜小六年 二宮 ちさ

なんだろう涙出てくる卒業だ

優秀賞

南新浜小六年 加藤康之介

ひまわりはくもりのときの太陽だ

ひまわりはくもりのときの太陽だ

（町山公孝 報）

市川市俳句協会創立七十五周年記念・行徳吟行会（兼）俳人協会千葉支部秋季吟行会

部秋季吟行会

令和六年九月二十九日、市川市俳句協会創立七十五周年記念・行徳吟行会（兼）俳人協会千葉支部秋季吟行会が、行徳公民館にて開催された。

参加者六十八名。沖同人、行徳郷土文化懇話会会長峰崎成規氏の「行徳の歴史と神輿について」の講演が行われた。

入賞句

① 寺百軒黄菊白菊にほひ立つ

上田 玲子

② 昼ちちろ鳴く潮錆びの常夜燈

塙 誠一郎

③ 常夜灯いくたび扇燕送りしか

栗坪 和子

④ 白萩の地に触れ咲きぬ塩の寺

飛田小馬々

⑤ 町の名に残る塩焼鳥渡る

原 瞳子

⑥ 樹々に空あり蓑虫に風のあり

増成 栗人

⑦ 素風いま神輿の街の気骨秘め

澤田 英紀

⑧ 寺町の畳屋匂ふ雁渡し

奥井 あき

⑨ 家康も踏みしこの道秋気澄む

栗原 公子

⑩ 白萩の咲くといふより零れたる

志磨 泉

⑪ 黒松の亀甲肌にある秋意

箕輪カオル

⑫ 常夜灯の石の古色や秋湿り

竹下喜代子

⑬ 秋霖や暗きに光る仁王の眼

藤巻 紀子

⑭ 徳願寺の朱の山門や秋の風

伊藤 隆

⑮ しづもりて道あり秋の彼岸過ぎ

滝口美智子

⑯ 寺百軒育てし水路鳥渡る

岡井マスマ

⑰ 寺町の人のぬくもり小鳥来る

小見 恭子

⑱ 街道は今や旧道虫すだく

峰崎 成規

⑳ 六地藏の足もとに飴小鳥来る

阿部理恵子

㉑ 五箇町の結の絆や秋まつり

能村 研三

「いごは」創刊二十周年記念号

村上喜代子主宰の「いごは」が創刊二十周年を迎え、通巻一九三号にあたる十月号が記念号として発行された。慶祝。主宰による「挨拶」二十

周年という重み―、特別作品「青胡桃」のほか、
いにはアルバム、諸家近詠、諸家随想、特別寄稿
「村上喜代子小論」 広渡敬雄を収録。二十周年記念
コンクールについては別掲。

● 結社賞 ●

第十八回「鴻」賞

- 「鴻」賞 「ぼぼぼと弾け」 神野未友紀
- ポップコーンぼぼぼと弾け冬の晴 未友紀
- 「鴻」新人賞 「触れ太鼓」 江部博
- 墨堤をゆく秋場所の触れ太鼓 博
- 「鴻」新人賞 「唇のピアス」 野村昌代
- 唇のピアスのひかる愛国忌 昌代

第五十一回響焰賞

- 響焰賞 該当作なし
- 佳作一席 「春たけなわ」 吉本のぶ子
- よもつひらさか春たけなわや徒歩で行くのぶ子
- 佳作二席 「一月一日」 大竹妙子
- 一月一日ことわりもなく壊れ 妙子
- 佳作三席 「荒星」 石谷かずよ
- 荒星や置き去りにせし我が山河 かずよ
- 佳作四席 「アンダースロー」 藤巻基子
- 心機一転ささらぎのアンダースロー 基子

第二十二回「万象」新人賞

- 「万象」新人賞 一由久美子
- 引き寄せて弾む小枝や日脚伸ぶ 久美子
- 第二十二回万象俳句賞 (「万象」八月号より)
- 万象俳句賞 「空の不思議」 伊藤美音子

- 碧と言ふ空の不思議や寒の晴 美音子
- 次点 「茶摘」 伊東文恵
- 鶯の笛村の目覚むる茶摘時 文恵
- 佳作 「辺土の桜」 松田好子
- 手つかずの辺土の地震禍桜咲く 好子
- 佳作 「鳥」 杉澤修
- 鶯の輪の交はるところ風光る 修

いには二十周年記念コンクール (「万象」十月号より)

- 俳句の部
- 最優秀賞 「単語帳」 橋内訓子
- 料峭や試験に出る順単語帳 訓子
- 二席 「芽吹く」 梅津紀子
- 芽吹く木の根元あたりに芽吹くもの 紀子
- 三席 「桃」 花澤ちいこ
- 桃一つひといきに食べ生きてをり ちいこ
- 佳作 「面会日」 今雅子
- 夏至の日の直接会へる面会日 雅子
- 佳作 「勤労感謝の日」 唐笠俊郎
- 駅蕎麦に卵を勤労感謝の日 俊郎
- 佳作 「波音」 千田愛
- 緑陰のタクシーの窓ノックして 愛
- 佳作 「風天」 松澤健治
- 風天の機嫌のよき日初桜 健治
- 佳作 「ほろほろこぼす」 ひめみや多美
- ひなあられほろほろこぼす下手な嘘 多美
- 佳作 「銀の匙」 木下洋子
- 花冷や使はぬままの銀の匙 洋子

評論の部

- 最優秀賞 柴崎正義
- 「石田波郷句集『酒中花』の一考察」

- 二席 斎藤ときは
- 「季語が動く・動かない」 についての考察
- 佳作 木嶋純子
- 「欣」と綾子小論―武蔵野時代の句の考察
- 佳作 佐藤敦子
- 「インターネットと季語」
- (「いには」 十月号より)

千葉県俳句作家協会

運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元

◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口座

郵便振替

〇〇一四〇一〇一七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせていただきます。

新入会員一句

- 床上げの妻連れ立ちて土筆摘む 木谷 佑風
- 絶え間なくひびく槌音夏盛ん 紬 真知
- 少年の大人の会釈青葉風 荏原百合子
- 生業は海女の一生磯嘆き 大政 健夫
- 柵糸を繰りつつ春の愁かな 松本 玲子
- 子の連れて来たる男とアイスティー 清瀬 朱磨
- 夕焼けに溶け込んでゐる曼珠沙華 西尾 吉正

基金御礼 (令和六年六月一日以降)

町山 公孝 本池美佐子 東條さくら子
 坂井 博 増成 栗人 清水佑実子
 白鳥紅星子 湯浅 康右 吉田 政江
 藤代 康明
 (令和六年七月二五日現在:十八口、三万六千円)

受贈誌より

あびこ (三七四号) 老鷲のこゑのしたたる雑木山 染谷 卓
 いには (十一月号) ゆふかぜにたたまれてゐる白芙蓉 村上喜代子
 沖 (十一月号) 黒扇ゆるゆる使ひ傍観す 能村 研三
 音信 (十一月号) 虫時雨車を駐めて灯を消して 白鳥紅星子
 かずさホトトギス (六六三号) 秋草に道ふさがれし水辺かな 三枝かずを
 きみつ文芸 (第一四六号) 米寿祝ぐ孫子に更けゆく春の闇 野口 糸朗
 響焰 (十一月号) 虫の秋電気自動車充電中 米田 規子
 草の実 (十月号) 八丈島の潮の香遙か浜万年青 逸見 真三
 鴻 (十一月号) 安房は海上総は秋の野辺の色 増成 栗人
 好日 (十一月号) ありのまままでいいんだ汗のシャツ乾き 高橋 健文

鳴 (十一月号)

吊されて籠の鈴虫月に鳴く 加藤 峰子
 軸 (十一月号) 陽を返す栗の重さの片結び 秋尾 敏
 瀬祭 (十一月号) あかあかと入日野を染め冬に入る 本田 攝子
 野火 (十一月号) 薬師岳堂々とあり秋の天 菅野 孝夫
 初蝶 (十一月号) 皺消えし母の死顔秋灯 中山 和子
 万象 (十一月号) ナウマン象滅びし湖や夕野分 江見 悦子
 ペガサス (二十号) 青葉雨魔女の鏡を磨き上げ 羽村美和子
 百鳥 (十一月号) 新米を噛みしめ余命思ひ遣る 大串 章
 るんど (十一月号) 松虫草旅情は風に染まりつつ すぎき巴里

事務局日誌

◆令和六年度 第二回理事会 (出席者28名)
 日時 令和6年6月15日(土)
 ホテルプラザ菜の花 4階 楨2
 議事 1 令和6年度第66回千葉県俳句大会について
 2 令和6年度成田山秋季吟行会について
 3 令和6年度新緑交流会の結果について
 4 「第38回協会賞贈賞式」の結果と

「第39回協会賞」の募集について

5 「第10回千葉県俳句大賞」について
 6 千葉県俳句作家協会合同句集 第11集について
 7 会報「真木」二一〇号について
 8 その他 事務局報告

◆令和六年度 第三回理事会 (出席者22名)

日時 令和6年8月24日(土)
 ホテルプラザ菜の花 4階 楨2
 議事 1 令和6年度(第66回)千葉県俳句大会について
 2 令和6年度成田山秋季吟行会について
 3 新春交流俳句会・新緑交流俳句会について
 4 今後の俳句大賞について
 5 千葉県・県民文化祭の俳句短冊展について
 6 会報「真木」二一一号について
 7 その他 事務局報告

会員異動

新会員
 木谷 佑風 (松戸市) 紬 真知 (柏市)
 荏原百合子 (流山市) 大政 健夫 (松戸市)
 松本 玲子 (流山市) 清瀬 朱磨 (千葉市)
 西尾 吉正 (香取市)
 謹 訃
 関谷ひろ子 様
 水見 壽男 様
 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

歩いて俳句

創刊 鳥居三朗
師系 今井杏太郎

主宰 飯田 晴

雲発行所

〒276-0023 八千代市勝田台一七一
D一〇〇五
電話 & FAX 〇四七・四八七・七二二七

心を満たす俳句

「鴻」俳句会



主宰 増成栗人
師系 角川源義 吉田鴻司

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二四一六谷口方
電話 〇四七・三六三・四五〇八
FAX 〇四七・三六六・五一〇〇

◆誌代/年間 二二,〇〇〇円

月刊俳誌 鷗 (しぎ)

鳴俳句会
代表 加藤 峰子
創刊 田中 午次郎
再刊 伊藤 白潮

誌代 1年 12,000円
(見本誌 500円)

〒260-0852 千葉市中央区青葉町 1274-14 加藤方
電話・FAX 043-225-7115
<http://shigi-haikukai.com/>

自然と人間の一体化を目指す
月刊

好日

創刊 阿部 笈人
主宰 高橋 健文

誌代 一年 一一,〇〇〇円(送料共)

〒270-0007 千葉県松戸市中金杉二ノ七八
好日俳句会
電話 〇四七・七一三・六四九五
振替 〇〇二五〇一四二二七八

月刊俳誌 沖 (おき)

俳句ルネッサンス

主 宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/7,800円
見本誌 1冊 800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊50周年

軸

軸俳句会
主宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4
電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110
84円切手3枚で見本誌贈呈

俳誌 あびこ

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五
TEL 〇四一・七二八・二四四四一

郵振替 〇〇一〇〇一四一八九〇七四

あびこ俳句同好会

一度きりの今を楽しむ

いには

主宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円(月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円

—いには俳句会—

〒276-0036 千葉県八千代市高津390-211
電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469
HP検索: いには俳句会

現代俳句同人誌 隔月刊 遊牧

名譽代表 塩野谷 仁
代表 清水 怜

誌代 一年 六,〇〇〇円(送料共)

〒290-0003 市原市辰巳台東五三二一六 大西方
電話 〇四三六・七四一・五三四四
振替 〇〇二八〇一五一〇〇〇二七

遊牧俳句会